

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい (えがお荘)		
所在地	岩見沢市幌向2条1丁目611-127		
自己評価作成日	平成30年9月18日	評価結果市町村受理日	平成30年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan1=true&JigvosvoCd=0175700335-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	平成 30年 10月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良好なチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。また、外出行事にも率先的に出掛け、季節に合わせた外出ツアー・町内会に加入し、地域での花壇の手入れやゴミ拾い・催し物に積極的に参加し、入居者様の思い出に残る生活を提供している。防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行い、各ユニットにて自主避難訓練も行なっている。常勤の看護師を配置して、介護職員と連携して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほろむい」は地域資源としての役割を担い、平成15年に当地に開設しています。敷地内にある3事業所合同で夏祭りや敬老会、クリスマス会や餅つき大会を開催し、利用者の交流の場となっています。運営推進会議は関係町内会のみならず、他の町内会役員や民生・児童委員、市や地域包括支援センター職員、家族の出席を得て行われており、活動報告後に事業所での看取り、地域全体としての防火訓練、家族の介護体験談などが話し合われています。水族館や温泉などへの多様な外出支援を行っています。冬期間は室内レクを充実し、身体機能維持や五感刺激を図っています。職員は利用者の意思を尊重し、確認を経てから食事作りなど願ひするなど、利用者の意に沿った自由な暮らしの支援に努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的会議において理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について説明している。毎月、理念の体現について話し合いの場を設けている。	法人理念を共有すると共に、理念に沿った年間目標をユニット毎に立てて、目につきやすいところに掲示しています。日常業務や各種会議において、理念に基づいたケアの実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的な草刈りや花壇の手入れなどに率先して参加し地域の方と交流を図っている。	地域とは、散歩時での挨拶は基より、地域交流会等の町内会行事に利用者と一緒に参加し交流しています。神輿披露に訪れた子供達を、利用者はお土産を用意して歓迎するなど、相互の交流を利用者の生活意欲に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解が得られるように議題を設けている。また、定期的にお便りを配布し、グループホームの活動内容について理解して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時などの協力体制について、ご家族、市の関係者、町内会役員の方などに参加して頂き意見交換や実践への取組を行っている。	会議は、関係者の参加を得て定期的に開催しています。課題であった家族の参加拡大は、職員の努力により複数の参加が得られています。防災については、事業所のみならず地域全体の案件としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録・グループホームのお便りを届けるなど、顔を合わせて話ができるように努めている。その都度、運営上の疑問や問題点などを相談させて頂くように心がけている。	代表者が行政の各担当者を訪れ、報告書等の各種提出書類を持参した際に相談ができ、助言や提案を得ています。運営推進会議やケアマネ連絡会で得た地域包括支援センター職員からの情報を運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各会議で随時、身体拘束を行わないケアを話し合い全職員が身体拘束についてのケアマニュアルを基本とし支援を行なっている。	マニュアルを整備し、会議等で身体拘束適正化について討議しています。外部研修や伝達研修等で具体例や弊害の理解に繋げ、適切なケアに努めています。代表者はニュースでの事例を職員に周知し、注意喚起を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加しユニット内で報告会を行なっている。また、日常的に言葉使いなどにも注意を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加・内部研修の機会を設け、ユニット会議などで職員全員が理解できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に合わせ解りやすく説明し、疑問点などについて確認しながら理解・納得して頂くことができるように努めている。その後の疑問点についても随時対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より利用者やご家族と職員が気兼ねなく話せる雰囲気作りをしている。直接、意見・不満・苦情を伝えられる関係作りをしている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話しあっている。	ホーム便りでは利用者個別の状況と3か月分の行事予定を記して情報を提供しています。さらに、運営推進会議の議事録を送付し、事業所の取り組み状況を伝えています。家族来訪時等で把握した要望は、会議等で改善に向け協議しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と気軽に話せる環境を整え、職員からも各会議などで意見を頂きながら反映させている。	代表者は、常に事業所で職員の意見や要望を受け止め、さらに新人職員には定期的に面談を行っています。管理者は、職員と意思疎通を図り、出された意見は代表者に報告し、業務の改善や職場環境の整備に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員から、シフトの希望を取り作成を行っている。日常より、働きやすい環境となるよう話し合いを行い、改善できるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは随時参加している。参加後はユニット内で報告会を開催し、個々のレベルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修に参加する事により、他事業所との情報交換や交流を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などへ入居前に必ず訪問し面談を行ない、不安なことなどについて聞き取り入居後の支援に活かしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を行い、不安なことや要望などを伺っている。利用者様やご家族のからの要望などを把握し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の思いを聞き取り、課題の見極めや必要な支援の把握を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人一人を尊重し、個々に合わせた支援を行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常様子やご本人の思いなどをご家族へ伝えるように努めている。できること・できないことを見極め家事支援などの支援を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人なども気兼ねなく自由に来荘することができる環境を整えている。	家族や知人の面会時は、居室や居間で寛いでもらうなど馴染みの関係を大事にし、次回の面会に繋げています。一時帰宅や美容室への外出などは家族の支援を得ながら、懐かしい場所へは外出行事で訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態に合わせて、協力して行なえる手作業などを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも近況を確認するなど、アフターケアについても配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との交流を多く設け希望や意向について確認している。また、難しい場合には、ご家族にも協力していただきながら検討を行なっている。	利用者との関わりや家族からの情報等で、利用者の根底にある思いの汲み取りに努め、満足感に繋がるよう職員間で検討しています。自宅に行きたいなどの要望には家族の支援が得られており、共に支える関係にあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活の歴史等を確認し、入居後に不安のない生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を記録し、職員間で情報の共有を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や状態変化が見られた時などに意見交換や課題の検討を行なっている。ご家族の意見や要望についても反映し作成している。	介護計画の定期見直しや状態変化時には、利用者や家族の要望を収集し、個別の記録や医療関係者の意見を基に職員全員で検討しています。介護計画と介護記録は連動しており、目標の達成度が確認できるよう工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の経過表に入居者様の状況や訴えなどを記録し、職員間で情報を共有を図っている。また、介護計画書の見直しや評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な受診、買い物などの送迎や付添支援を行っている。また、訪問販売や訪問理容なども活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の児童館・ボランティア・町内会での活動参加、消防職員の協力のもと避難訓練等を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診など、緊急時には24時間の連絡体制を整えている。利用者様に合わせた主治医との連携を心がけている。	利用者全員が月2回の訪問医を主治医とし、さらに週1回、訪問看護師の健康管理も行われ、早い段階での診察が可能になっています。情報は、関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に見守りが訪問し、情報の共有を図りながら医師へ報告や相談を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、情報提供を行なっている。退院時には、日常生活の中での留意点について確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望など、心身状況を踏まえながら主治医を含めて話し合いの場を設けている。	入居時に重度化対応指針を説明して同意を得ていますが、重篤時には看取りへの意思確認を家族に行っています。家族や医療関係者、事業所が協議をし、条件が整った時点で看取り支援の開始としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な実施はないが、急変時には看護師との連携を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1～2回消防職員立会いのもと訓練を実施している。また、隔月で自主避難訓練を行なっている。	年6回の避難訓練を計画して順次実践しており、内2回は消防署指導の下での夜間想定訓練となっています。水害時は2階に避難するなど、自然災害対策も検討しており、職員の意識統一に努めています。地域の方々にも非常時の協力をお願いしています。	今回の震災では、定期的に行われている自主訓練が生かされました。改めて災害時対策の必要性を再確認しておりますので、継続しての訓練や備蓄品の充実等に期待しています。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快感を与えないように声掛けに注意しながら支援を行なっている。	日常の業務や会議で接遇について話し合っており、職員は、ゆっくりとした声かけを行うなど、不適切なケアにならないように職員間で注意合っています。個人情報の取り扱いも十分に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、希望や要望など伺い実行できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や希望を伺い、一人ひとりの生活リズムで過ごすことができるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り洋服は自ら選び着ていただいている。また、自ら選ぶことが難しい場合は、職員選びながらご本人にも伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を伺いながら調理する機会を設けている。	食事は業者から届いていますが、利用者の要望に応じて稲荷寿司や手打ちうどんとフキの煮物、餃子やカボチャのクリームケーキなどを調理レクとして作ったり、流しソーメンには菜園のトマトやキュウリを活用しています。また、時には出前を取るなど食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態の提供を行なっている。水分摂取量を把握しながら提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては促しながら実施している。できない方には見守りや一部介助を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期・不定期に排泄誘導し、ご本人の状態に合わせて布パンツ・パット・オムツなどを使用している。	自立排泄の利用者にも、その後は必ず確認して記録しています。利用者の様子から声かけに配慮して、トイレでの排泄支援に努めています。ポータブルトイレや下着等は、利用者の状態を見極めて使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に留意し、声掛けを行なっているが、改善がなければ医師に相談し排便コントロールを行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日を決めている。入浴日を決めることで1日の日課を入居者様と共有することができている。	入浴は同性介助に配慮し、週2~3回の支援を行っています。入浴を拒む場合は声かけなど工夫をしていますが、無理強いはしていません。入浴剤入りの湯船に浸かり、歌ったり、言葉数が多く出るなど普段と違った場面が見られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に合わせて、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに沿って支援を行なっている。内服薬の変更についても、職員間の共通認識を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事や屋外の環境整備などへ楽しみなが参加されており、気分転換を図ることができるように支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの外出支援を行なっています。	散歩や買い物、菜園の手入れ、事業所の庭でピクニックなど外気に触れる機会を設けています。さらに町内会行事への参加や日帰り温泉、総合公園での花見や小動物との触れ合い、水族館や道の駅への外出など多様な外出行事を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族へ確認し、職員の付添で買い物などをされ、施設で預かっているお小遣いを持参し、支払いを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、施設の電話をお貸し使用していただいている。また、自ら電話をかけることが難しい場合には、職員より電話連絡を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁面飾りを行なっている。体感センサーの音量に配慮している。	事業所全体が広々とした造りになっており、全館床暖房やエアコンで温度調整を行い、空気清浄機能設備もあり、心地良い居住空間になっています。壁面には、利用者の合同作品である季節に因んだ紙細工や時計があり、さらにソファやテレビなど馴染みの物が置かれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気兼ねなく話ができる入居者様同士の席を設けるなどし、個々に合わせた活動提供ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持参していただくように説明し安心して過ごすことができるように意識して実施している。	6. 5畳ある居室にはクローゼットやベットが設置されています。室内には、動線に配慮してテレビ、机、ダンス等が置かれ、鉢植えや絵画、利用者のレクでの作品、写真が飾られており、一人ひとりに沿った居室作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を解りやすく大きな文字で明記を行なっている。また、食事の席も氏名を貼り入居者様が座りやすいように配慮している。		